

若手農業者グループ
新しい手法、積極的に吸収

7月6日、新たな栽培技術の習得を目的として、町内の青年農業者グループ8名が水稲密苗（みつなえ）栽培を行う知内町のほ場を視察し、技術を吸収しました。「密苗」とは、育苗箱に苗を高密度（通常の2倍）に播種させることで、一度の栽培に必要となる育苗箱の枚数やハウスの棟数が減り、労力・資材費が約半分となることから、大幅にコストの低減を図ることができる手法です。省力化と効率化に大きく期待が持てる密苗栽培ですが、この視察に参加した青年農家からは、「地域の高齢化や労働力不足から、低コストや省力化が必要になってきており、良い栽培技術を学ぶことができた。」「密苗に取り組むことで、ハウスの棟数を減らせることにメリットを感じた。」などの声を聞くことができ、今後こうした技術を積極的に取り入れていきたいとのことでした。



天の川七夕飾りたなびく

7月7日、七夕を迎えた本町の天の川橋に、多くの短冊が飾られた。これは上ノ国保育所の園児たちが毎年行っている活動で、橋のらんかんの拭き掃除に始まり、笹に願ひ事を書いた短冊やお星様などを結んだ七夕飾りを作り、自分で短冊には、「ケーキ屋さんになりたい」「けいさつかんになりたいたい」と憧れの職業についてや、「いってんどーすいっちがほしい」という素直な願ひ事など様々な園児の思いが込められていました。この日は日中から天気にも恵まれ、風に揺れる笹が夏の風情を感じさせる一日となり、織姫と彦星も一年ぶりの再会を果たすことができた様子です。



清流・天の川の鮎釣り

7月1日、天の川の鮎釣りが解禁され、流域では川面に竿を振る方の姿が多く見られます。本町の天の川には天然の鮎が生き息しています。個体数の減少から近年は地元の「天の川鮎愛好会組合（三浦實会長）」が協賛金を募り、毎年約2万尾の稚魚放流や釣り場の草刈りを行うなど、資源の維持を図っています。昔から鮎釣りを行っているという同愛好会事務局の鈴木廣昭さんにお話を伺うと、「資源の維持は、昭和60年から連続と続けられており、毎年皆で鮎釣りを楽しんでいきます。」とのこと、9月15日の期限まで鮎釣りを満喫したいとのことでした。



スピードダウン！
子どもたちの願い描かれる

7月18日、上ノ国漁港前国道の坂道にて、壁面に描かれた交通安全標語が、滝沢小学校児童たちの手によって塗り直されました。これは、夏の交通安全週間に合わせて江差警察署の呼び掛けにより実現したもので、滝沢小学校の児童たちは事故が起きないことを願いながら、文字を塗りなおしました。また指導にあたった滝沢駐在所の中谷陽一巡査部長にお話を伺ったところ、「これを見た全てのドライバーの方に、子どもたちからのメッセージだと思って交通安全意識を新たにしてみました。」とお話がありました。特に最近、町内でスピードの出すぎによる事故や動物との接触事故が多発していますので、児童たちの思いに応えるためにも、スピードダウンで安全運転を心がけましょう。なお、この作業はあと数回に分けて実施されます。

